

令和3年度 Tokyo Data Highway サミット
議 事 録

令和4年1月21日（金）

Web 会議

午後4時03分開会

○司会 それでは、「令和3年度 TOKYO Data Highway サミット」を開会いたします。

本日、司会を務めます三橋泰介と申します。

初めに、本日の出席者を御紹介させていただきます。

小池東京都知事です。

○小池知事 よろしくお願ひします。

○司会 宮坂東京都副知事です。

○宮坂副知事 よろしくお願ひします。

○司会 続いては、リモートでの出席者を御紹介させていただきます。

慶應義塾大学教授の村井純先生です。村井先生には、本サミットの座長を務めていただいております。

株式会社NTTドコモ代表取締役社長の井伊基之様です。

○井伊様 よろしくお願ひします。

○司会 KDDI株式会社代表取締役社長の高橋誠様です。

○高橋様 よろしくお願ひします。

○司会 ソフトバンク株式会社代表取締役社長執行役員兼CEOの宮川潤一様です。

○宮川様 よろしくお願ひします。

○司会 楽天モバイル株式会社代表取締役社長の山田善久様です。

○山田様 よろしくお願ひいたします。

○司会 株式会社JTOWER代表取締役社長の田中敦史様です。

○田中様 よろしくお願ひいたします。

○司会 このTOKYO Data Highway サミットは、東京都が「TOKYO Data Highway 基本戦略」で掲げる、5Gなどの超高速モバイルインターネット網の早期構築とその先にある都民の皆様の生活の質の向上に向けて、通信キャリアの皆様と東京都とが認識の共有と意見交換を図る場です。

3回目となる今回は、『つながる東京』の先にあるもの5Gの可能性」をテーマに開催いたします。

終了は17時を予定しております。

まず、会議の開催に当たりまして、小池知事から御挨拶を申し上げます。知事、よろしくお願ひいたします。

○小池知事 小池でございます。久々にオンラインで、こういう形で皆さんとお話しできるのを大変うれしく思います。

今日はお忙しいところ、座長の村井先生をはじめ、通信事業者各社の代表の皆様にお集まりいただいております。本当にありがとうございます。皆様方には5Gネットワークの早期構築に向けまして本当に多大なる御尽力を賜っております。

また、高齢者向けのスマホ教室の開催への御協力など、東京都の各種施策に御支援いただいております。感謝申し上げます。大変好評でありまして、そして、逆に利用者の皆さんが何を求めていらっしゃるのかという、ある意味そういうことを知る意味で非常に効果的なのではないかと思いますし、これからの時代、高齢の方々も普通に使えるような時代、これを皆さんとともに作っていきたいと思っております。

今年も1月も後半に差しかろうとしておりますけれども、年頭によく「キーワードは何か」と求められるのですが、今年の私のキーワードは「光」だとさせていただきました。新たな未来を切り開く取組、光がさす取組を推進すること、それから東京のさらなる発展を成し遂げるという意味で「光」とするわけですけれども、デジタル基盤の整備も今年は光のごとく爆速で、宮坂副知事がよく使っておられる爆速で進めていきたいと考えております。

5Gネットワークの構築につきましては、御承知のように東京としても官民連携したネットワークの構築を後押ししているところでございますが、基地局設置の加速化に向けまして、以前から申し上げておりますように、都が所有しておりますアセット、都道の街灯であるとか信号など約1万5,000件を開放しまして、うち約100件が現在既に稼働中、さらに現在300件程度の調整を進めているところでございます。また、新たに企業の皆様方に御協力いただいて、連携協定を締結することで約300件の民間アセットを追加したところでございます。

それから東京都には島がたくさんございます。島しょ地域や、そしてまた一方で多摩地域では、場所によっては通信環境がいいところ悪いところがあるのですが、今年はどこでも携帯電話が使えるように整備を進めてまいります。

デジタルの特徴というのは、皆さんにこのことを申し上げても釈迦に説法なのですが、距離の制約をなくすことで、とりわけこの島々と多摩におけるデジタル整備というのは、まさにデジタルの力が発揮される場となります。より一層積極果敢に取り組んでいきたいと思っております。

そして振り返ってみますと、私、議員のときに堺屋太一経済企画庁長官の下で政務次官を

務めまして、そのときに IT 基本法というのを作ったのです。そこから時代が変わって、デジタル庁もでき、またこれを大きくさらに進めていくという意味では、都知事として、またこの大東京でより利便性の高い通信環境を整えるというのは意義があるし、私自身役目を担っていきたい、宮坂副知事と連携して TOKYO Data Highway を実現したいと考えております。

今回3回目となりますこのサミットですけれども、『つながる東京』の先にあるもの」をテーマといたしまして皆さんと議論をさせていただきたい。そして、あらゆる営みがデジタルによって支えられた未来の社会のビジョンの共有、都民の皆さんにも未来の東京の具体的なイメージをお伝えしたいと思います。

皆さんとの連携を一層強化しまして、「いつでも、誰でも、どこでも『つながる東京』」を実現していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

冒頭の御挨拶とさせていただきます。

○司会 ありがとうございます。

それでは、これより意見交換に入らせていただきます。

意見交換の進行は村井座長にお願いしたいと思います。村井座長、よろしく願いいたします。

○村井座長 今、御指名いただきました慶應大学の村井でございます。どうぞよろしく願いいたします。

今、知事からお話があったように、Tokyo Data Highway ということで、モバイルの各キャリアのトップの方が皆さん集まって議論ができるチャンスというのは、とても特別な機会ではないかなと思います。

それからまた知事も、この COVID-19、オミクロンの新しい局面で、都民のために、あるいはこの東京都全体の空間のために本当に御尽力いただいているときではないかと思いません。

そういった意味で、この DX、今知事からもお話がありました IT 戦略というのが 21 年前に始まりまして、今 DX の戦略、デジタル戦略ということだと思いますけれども、世の中がそうやって動く中で、一人一人の人間がどういう生活をして、どうやってデジタルの恩恵を受けられるのかというこの基盤がまさにこの 5 G の基盤ではないかなと思います。そのことによって、こういった非常に歴史的な新しい、難しいこのときに私たちがどういうふうこれを切り開いて、その光を求めていけるのかという大変重要な局面ではないかなと思

ます。

そういった意味も含めまして、今日もそれぞれの会社の方から、皆さんから、この25年、少し先を見据えた5Gのサービスのイメージ、あるいはこの活用の可能性ということ全ての方が意識をして、東京都でうまくいくかどうか。そのことが全国に広がるかどうか。そしてそれが世界に貢献できるかどうか。こういうことの本当に歴史的に大事なときではないかなと思いますので、ぜひそういった意味での発言をお願いしたいと思います。

それでは早速ですけれども、まずドコモの井伊社長、よろしくお願いいたします。

○井伊様 NTTドコモの井伊でございます。

5Gのサービスを開始しましてから約1年半になります。東京都のエリアにおきましては、既に2,000局を超える基地局を設置しております。まだまだこれから増やしていく予定でございます。

現在、全国での5Gの契約数は約900万を超えております。その中で500件ぐらいの5Gを活用したソリューション、こういった案件を生み出してまいりました。

次のページ、お願いいたします。

私どもは様々なパートナーの方と連携をしまして、医療、教育、観光、それから災害に強いまちづくりなど、様々な分野での5Gの対応のソリューションを拡充しているところでございます。

特に今後は、東京都の市区町村様あるいは企業の皆様のニーズに基づいて、しっかりと情報収集をして、具体的な取組を進めてまいりたい。その結果として、社会課題の解決、それから産業の発展に貢献をしてまいりたいと存じます。

次のページ、お願いします。

これはほんの一例ではございますけれども、5Gの特徴を非常に生かした例でございます。東京女子医科大学様との連携で、5G網と直結したクラウドを活用しまして高精細な手術の映像とかを伝送することで、遠隔地から熟練のドクターが支援できるという形でございます。

また、このほかにも東京都様と今度は島しょ部における遠隔診療、こういった取組も連携して進めてまいりたいと今、予定をしております。

次のページ、お願いします。

最後のページになりますけれども、5Gエリアの構築ということにつきましては、冒頭ございましたとおり、東京都様による保有アセットの開放、それから基地局の設置手続の簡略

化など、大変積極的なお取組に御礼を申し上げます。

ドコモは今、東京都様と連携をして、西新宿のエリア、それから島しょ部を含めた5Gのエリア構築を進めてございます。その観点で本日は2点ほど申し上げますと、1点目は、スペースが限られる都市部におきましては特にシェアリングというのが重要だと考えます。現在、西新宿のエリアでは景観になじむようなデザインにも配慮したサイネージ型の基地局、こういったものの設置に取り組んでございます。引き続き東京都様の御協力を得ながら、このシェアリングの拡大というのを進めてまいりたいと思います。

それから2点目は環境への対応ということになります。5Gの活用にはエネルギー消費の増加というのが課題になってまいりますので、省電力化とか、あるいはグリーンエネルギーの活用推進というのがやはり不可欠でございます。

ドコモも再生可能エネルギーを活用したグリーン5G、こういったものの推進に今取り組んでいる最中ですが、5Gを拡大していくのとセットで、カーボンニュートラルの実現に向けて自治体の皆様と連携して取り組んでいくということが必要であると考えております。

今後もスマート東京の実現に向けまして5Gのエリア展開を加速してまいりますので、御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは引き続きまして、KDDIの高橋社長、お願いいたします。

○高橋様 KDDIの高橋でございます。よろしくお願いいたします。

それでページめくっていただいて、東京都における5Gの取組について簡単に御紹介をさせていただきたいと思います。

我々もドコモさんと同様、5Gに向けては非常に積極的なエリア展開を今行っておりまして、5Gエリアを早期に拡大することと、高速通信体験をより身近なものにしていきたいということで、特にお客様の生活動線というものを中心に、鉄道あるいは商業地域でのエリア拡大を進めております。

東京都内も、山手線全30駅のホーム・駅間、あるいは各鉄道路線を中心に続々と拡大を行っておりまして、知事からもお話がありました東京都様保有のアセットについても活用を進めさせていただいておりまして、ただいま96件の利用希望を提出させていただいておりまして、御調整いただいているという状況にあると思っております。「ずっと、もっと、

つなぐぞ。」というスローガンの下に拡大を図っていきたいと思っております。

次、お願いします。

島しょ地域における災害対策とエリアの拡大でございますけれども、まず災害対策につきましては、東京都の全ての有人の離島で電源対策は既に済ませておりまして、災害時は船舶型の基地局での通信エリア、こういうものを維持しながら進めていきたいと思っております。

船舶を使った通信については胆振沖地震のときにも活躍させていただきましたので、こういうものも常に備えて万全の態勢を取っているところでございます。

また、右側にありますように、高速の通信エリアの拡大ということで、今後、光ファイバーの敷設が難しい島しょ地域においても、低軌道の衛星を活用した高速通信を御提供する予定ということで、Starlink さんとの提携もしておりますので、このようなものを活用しながら広げてまいりたいと思っております。

次、お願いします。

このように5Gのネットワークエリアというのを広げていきますと、今の既存の4Gエリアとともにいろいろな活用事例というのが出てまいると思っておりますので、東京都様との取組の事例、特にモビリティサービスにおきましては、ここにごきます自動運転タクシーということで、まちのインフラと協調した走行支援技術の実装であったり、また自動配送ロボットの実証実験。またドローンを使ったフードデリバリー、物流ですね、こちらのほうの実験、あるいはエリア定額乗り放題サービス、これも先頃 WILLER さんと一緒に協業で発表していますけれども、2キロ圏内の「ちょい乗り」サービスということで、移動手段として、特に高齢者の方たち、あるいは子育て世代のお客様に向けて、こういうサービスも現在進めております。特に渋谷区エリア、豊島区エリアで拡大をしているところでございます。

最後のページでございます。

同様に、都民生活の利便性の向上ということで、ヘルスケアの分野、あるいはワークスタイルの拡大の分野、そして行政手続のデジタル化、このような分野についても拡大していきたいと思っております。東京都様のアセットを活用させていただきながら、5Gのネットワークを非常に早期に拡大するとともに、お客様目線でのサービスについても取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。ありがとうございました。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは引き続きまして、ソフトバンクの宮川社長、お願いいたします。

○宮川様 ソフトバンクの宮川でございます。

次、お願いします。

今回、5Gで目指す2025年の世界がテーマになっておりますけれども、あらゆるものが5Gでつながることで社会のデジタル化が進んで、都民のQOLは向上していくと考えております。

次、お願いします。

一方、世界に目を向けますと、アメリカだとか中国では、既にロボットタクシーが実装され始めまして、我が国のデジタル化は世界とますます差が開きつつあります。

次、お願いします。

また、AIの都市実装ということでは、アメリカでは犯罪予測をAIで行って効果を出していたりだとか、それから中国ではつながる信号機を設置して、渋滞状況に合わせて交通量をコントロールしたりとかしております。

次、お願いします。

そんな中、東京都が掲げる世界最速のモバイルインターネット網を構築することは、私は本当に同感でありまして、全力でサポートさせていただきたいと考えております。デジタル格差をなくして、東京の端から端、23区から多摩地域、島しょ部まで同じような環境で5Gサービスを展開したいと思っております。

次、お願いします。

ここからなのですけれども、その中で今日はお願い事をお持ちいたしました。知事が冒頭に今年のキーワードは「光」だということで、ちょっと心強くこれからの話をしたいと思うのですけれども、今日現在、弊社は島しょ部において、11の島でLTEサービスを提供しております。速やかにこの全てを5G化したいところなのですけれども、現状は展開できないのが実態です。

これはなぜかという、現在の島しょ部の基地局というのは10メガから100メガの専用線を利用してサービス提供しているのです。これを5G化するには中継回線の速度が足りませんので、基地局だけ5Gの設備を打っても意味がないこととなります。

そのため、くまなく5G化するために、青色の点線の部分を見ていただくと、この光ファイバーを東京都に新設していただけないかというお願い事でございます。

今まで専用線として提供されていたものをぜひ、今まで敷設したものを含めて、我々通信

事業者に心線貸しする工夫をしていただきたいというお願いをさせていただきたいと思
います。

次、お願いします。

デジタル・デバイド解消して、誰一人残さない「つながる」東京を目指して精いっぱい頑
張らせていただきますので、御支援をぜひよろしく願いいたします。ありがとうございます
した。

○村井座長 どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、楽天モバイルの山田社長、お願いいたします。

○山田様 楽天モバイルの山田でございます。本日はありがとうございます。

次のページお願いいたします。

まず東京都におけます5Gネットワークの構築の進捗でございますけれども、特に東京
都様のアセットにおいて既に稼働している5G基地局が現在6局、構築中の基地局が77局
ということで、積極的に活用させていただいております。ありがとうございます。

また、楽天モバイルでは、5G、Beyond 5Gに向けて様々な5G関連の研究開発を進めて
おります。東京都様の案件では、こちらに書いてありますとおり、スマート東京というこ
とで、西新宿エリアでのスマートポールの設置、また信号機を活用したPRISMなどにも参画
させていただいております。

次のページ、お願いいたします。

昨今、小笠原諸島での地震など災害が頻発しておりますけれども、楽天モバイルといたし
ましては、ここに出ておりますとおり、通常の停電対策、長時間の停電に備えた予備バッテ
リー、発電機の燃料の備蓄等々をするとともに、非常にユニークなのは、このスライドの一
番右に出てございますけれども、衛星通信を使った通信サービスということを現在企画し
ております。これが災害対策としても活用できるのではないかなということでございます。

次のページ、お願いいたします。

楽天モバイルは、アメリカのAST SpaceMobile社と連携して日本全国100%のエリアカバ
ー、人口カバーではなくてエリアカバーです、地域のカバレッジ100%を目指して衛星通信
ネットワークの構築を図っております。この計画が優れているのは、専用の端末ではなくて
お手持ちのスマートフォンで衛星から電波が受けられるということで、災害時でも安定し
た通信手段を御提供できるということでございます。

私ども楽天モバイルでは、今後も都民の皆様に対して通常時も災害時もつながりやすい

通信環境を御提供できるよう、ネットワークを整備していく所存でございます。ありがとうございます。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、JTOWERの田中社長、お願いいたします。

○田中様 JTOWERの田中敦史です。

当社はインフラシェアリング事業者になりますが、私からは2025年に向けた東京都における5G展開について御説明したいと思います。

次のスライドをお願いいたします。

この1年間、当社として5Gインフラシェアリングでどのような取組を行ってきたかについてお話ししたいと思います。

まず、日本では初めて都庁の5Gの供用対策を実施いたしました。現在も都議会議事堂において準備をしているところでございます。そして墨田区にあるシェアオフィスの5G化を実施。また、交通局様とは都庁前駅構内での5G試行整備、検証等の実施について協定を締結いたしております。

あとは警察庁、総務省が推進している信号機を活用した5Gネットワーク構築のプロジェクトにも参画しておりまして、西新宿において信号5Gの実証実験を進めているところでございます。

次のスライドをお願いいたします。

スマートポール、まさにちょうど本日から一部の運用を開始しました。西新宿エリアに20基の建設を進めております。このスマートポールのコンセプトは、東京都の掲げる「つながる」「つたわる」「みえる」になります。

このスマートポールには5G基地局、高速Wi-Fiを設置して「つながる東京」に貢献したいと。また、ここのスライドにもありますが、搭載しているデジタルサイネージは「Lアラート」と連携しておりますので、災害情報、避難情報の発信などを提供することができます。都民の皆様や東京にいらっしゃる方々の防災への備え、快適に過ごすための情報発信が可能になると考えております。

次のスライドをお願いいたします。

最後になりますけれども、今回の実証を通じて、スマートポールを今後展開する際の課題、また解決方法など、多くのことが近く検証できていると思っています。ぜひ次年度からは実証ではなくて本格実装に向けて動き出したい。このように考えています。

また、勝手な提案にはなりますけれども、2023年度までに23区内、2025年度までに東京都全域にスマートポールを立てる目標をTDHとして掲げてみてはどうかと思っております。スマートポールを整備することによって、つながる、災害に強い安心安全なまちづくりになると考えていますし、全国の範となる先進的な取組にもつながるのではないかなと思っております。

当社としても、これまでの実証などの経験を生かしまして、引き続きTDHに貢献していきたいと考えています。

私からは以上になります。

○村井座長 ありがとうございます。

今、それぞれの社長から、いろいろ心強いこのData Highwayに関するアプローチが順調に進んでいることも御報告いただきましたし、一方、健康や医療、それから犯罪であるとか、そういったアプリケーション、これに関する5Gでの試み、あるいは取組というのも御紹介いただきました。

知事、今お伺いして、どのようにお考えでしょうか。

○小池知事 それぞれすばらしい取組を進めておられることに大変心強く思った次第でございます。

完全に携帯やデータの情報通信というのはまさしくライフラインになっているということは、これまでの様々な災害や、今回のトンガの話の一つ取ってみても明確であり、いかにして情報通信のライフラインを確保し、かつその質を、それは5Gという意味で上げていくかというのがスピード感も伴って重要なテーマだと思います。

既に遠隔医療で進めておられる例、モビリティサービスや行政手続のデジタル活用、インフラシェアリングの推進、それから先ほども衛星や船舶などを活用した通信環境確保の取組など、現場の話を伺うことができ大変うれしく思っております。

そしてそのことはすなわち都政のQOS、Quality of Lifeという言葉がありますが、私どもはQOSと呼んでおりまして、Quality of Service、都政のQOS、そしてさらには都民のQOLを高めるという意味でも重要なことと考えております。そして各社ともに5Gのエリアを確実に拡大していただいております。ぜひこのスピードをさらに加速していきたいと考えております。

そして、お話もありましたけれども、東京は西新宿に国内最先端と自負する5Gのフィールドがございます。来年度には官民連携のコンソーシアムを立ち上げまして、さらに新たな

サービスの創出に取り組んでまいりたいので、ぜひ皆様方も御参画、御提案のほど、よろしくをお願いいたします。

そしてこの後、私は外させていただくのですが、2点お願いを申し上げたいと思います。

一つ目は、既にお話がありましたが、多摩・島しょ地域のインフラ整備の一層の加速であります。山間部、そして島に5Gをつなげる、広げることで、様々な分野にデジタルの力を生かすことができるようになる。そしてより速度が速くて容量が大きい5Gの駆使によって、特に島においては教育や医療などのデジタル化ができる。新しい産業の成長にもつながることができる。むしろ離れているからこそそのメリットを生かせるのではないかと。多摩も同じであります。

これらの地域では携帯電話がまだ場所によってはつながらないところもあると聞いておりますので、多摩・島しょ地域の通信ネットワークの早期拡充にも格段の御配慮をお願いしたい。

そして二つ目が災害発生時への対応でございます。いろいろ皆さんもう既に度重なるこの災害でいろいろな事例で対応していただいているかと思いますが、本当に災害はいつやってくるもおかしくないということ。先ほど申し上げたように、トンガの海底火山の噴火でケーブルが寸断して、現地の状況がなかなか把握できないといった事態が生じたわけであります。

私どもは「備えよ常に」ということで申し上げて、災害時の通信の維持、早期の復旧、さらには避難施設の通信環境の充実など、引き続き御協力をお願い申し上げたいと存じます。

ちなみに、来年度の東京都の予算、これは大体スウェーデンとかノルウェーに匹敵する予算規模なのですが、特にグリーンとそれからデジタルに重きを置いた予算編成を行っております。それから、予算案の資料の中から「実証実験」という言葉を一切取りました。もう実証実験はあちこちでやっけてきているので、ここは実装するしかないだろうということで、そういう意味で、予算書からその4文字がなくなったということは、これから都政をより爆速で進めていきたいという思いでございますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

村井先生には引き続きどうぞいろいろと御指導のほどよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○村井座長 ありがとうございました。

それでは一旦ここで意見交換のセッションを中断いたします。司会をお返しします。

○司会 ありがとうございます。

申し訳ございませんが、小池知事は公務の都合上、ここで退席させていただきます。

会場の準備をいたします。今しばらくお待ちくださいませ。

(小池知事 退席)

(会場転換)

○司会 続きまして、トークセッションに入らせていただきます。

このセッションでは、出席者の皆様に「5G活用の可能性」「教育・防災・産業等、各分野のDX」の2つのテーマについてディスカッションしていただきます。

このセッションの進行も再び村井座長をお願いします。それでは、村井座長、よろしくお願いたします。

○村井座長 改めまして、村井でございます。よろしくお願いします。

今、皆さんから大変重要な5Gに関するプロGRESSもお話しいただきました。知事からは大変、私もずっと、知事に今日出てきていただいて、この大変なときにと冒頭申し上げましたけれども、ライフライン、本当に今インターネットの環境、皆さんのお仕事は、人にとっての命綱ですよ。これを作っているのだということで、そのことからカバレッジを広げていく。そういった全ての人、こういうことの2025年へのビジョンというか、そういうことをいろいろな形で紹介していただいたのだと思うのです。

その中で知事から、島を含めたカバレッジ100%の考え方、それから、当然のことながら、今知事が一番集中されているのは、健康、命、それから災害ということで、トンガの話も大分出てまいりました。そういったことから、カバレッジ100%島、それから災害を少しお話ししていただきましたけれども、そういった視点で、今度は順番を逆にして田中社長から山田社長、宮川社長という順番で一言ずつをお伺いしようと思います。

あらかじめ申し上げておくと、55分ぐらいには締めないといけないのですよね。したがって短めに議論いただきたいと思います。

田中社長、まずいろいろなシェアリングのことをJTOWERにはやっていたいただいていると思うのですが、特にこういった東京都のアセット、ほかの方にも伺いたいのですが、官民の役割、これがこのカバレッジあるいは災害という観点でどうあるべきか、これから変えるところはあるのか、こういった視点で一言頂けるとありがたいのですが。

○田中様 まず島しょエリア。我々インフラシェアリング事業者ですので、例えば島しょ

エリアにおいて複数の携帯キャリア様が同じエリアを対策したいような場合に、供用対策として当社を活用いただく場面が出てくるのではないかなと考えています。

あとは防災の観点から言いますと、今、西新宿で、先ほど説明しましたが20基のスマートポールを立てている。これは「Lアラート」とも連携したスマートポールになりますので、島しょエリアにおいても例えばスマートポールを見ることも今後あり得るのではないかなと考えています。

○村井座長 ありがとうございます。

サイネージのようなものというのは、本当に今までの災害のときも大変重要な役割を果たしたかなと思いますし、今から、ビフォー5Gとアフター5Gでは全然違う役割、つまり大きな役割を果たすのではないかなと思いました。

それでは山田社長、同じ議論ですけれども、やはりカバレッジが広がる。人がつながっていくというのは5Gでは2025年ではいわばできていると思っていいと思うのですけれども、本当に災害とか、それから健康、命、それから島、こういった意味でのそのカバレッジの広がりということがもたらすこと、あるいはそこに対する課題で、どのようにお考えでしょうか。

○山田様 先ほどのプレゼンの中でもありましたけれども、私どもは衛星通信を通じてエリアカバレッジ100%ということを目指しているわけですが、それが本当に実現しますと、まさに今、先生がおっしゃったような人を中心としたインターネットから物も含んだインターネットでも現実にパラダイムシフトが起きるのではないかなと思っていて、例えばいろいろなセンサーが人のいないところも含めてある。そういったものがドローンの飛行に役立つ。そういったことで、本当に今まで考えつかなかったユースケースが出てくるのではないかなと思っていて、非常に期待して、わくわくしているところでございます。

○村井座長 ありがとうございます。

宮川社長、さっきロボットだとか、犯罪とか、交通とか、そういうことのインフラ、その基盤ということでの役割も御紹介いただきましたし、一方では日本が遅れているというか、国際的な位置づけということにも触れていただいたのですけれども、そうするとこれから、島しょ部の光ファイバーのリクエストは後で宮坂さんに答えてもらおうと思いますが、日本が少し遅れている、あるいは国際的に少し東京は多分リードして貢献しなくてはいけないところですよ、我々としては。そのための、大きな課題はどういうところにあ

るか、あるいはどう進めていけばいいかというのは、どうしてお考えをお持ちですか。

○宮川様 ありがとうございます。

我々のこの通信については、東京は第一優先でやっておりますから、時間とともに5G化するというのは確実にできると思うのですけれども、ただ一方で、先ほどみたいに、物理的に5Gができないエリアというのが、島しょ部だとか奥多摩だとか、考えてみればバックボーンが存在しないところ。これを今までみたいに一事業者が競い合った中で作り上げるというのはさすがに重た過ぎる場所だと思っていまして、この辺りは自分たちではみんなやっていくべきではないかというつもりで、都が敷設されたものを最終的に完成させて、我々がそれを有効利用するというだけでもいいですし、我々自身が汗かけということであれば、その汗かく仕組みを作りあげればいいということだと思います。

特に岸田総理が言われるような田園都市国家構想みたいな形で、いろいろな産業を、都市・地方を含めて、国おこしのつもりで5Gを活用するというのであれば、今まで我々がエリア化した部分のエリア以外、まだ手をつけなくてはいけないエリアがたくさんあると思うのです。それをどう構築するかということをお互いに知恵出しをして、例えば事業者ごとにエリア分けするというのも一つの方法だと思いますし、国自身がインフラを作って我々とシェアリングしてもらおうという方法もあると思います。

こういうことを一から積み上げていって、他国にはない部分まで踏み込んだインフラづくりというのをやっていくのが競争力を上げていくことになるのではないかと思います。

○村井座長 ありがとうございます。大変重要なポイントだなと思いました。

高橋社長、知事はさっき Quality of Service、Quality of life、つまり個人の生き方とか生活、それからライフライン、こういうことに触れられていました。高橋社長は、さっきワークスタイルの多様化ということを紹介していただいたかと思います。COVID-19で本当に私たちは、私たちというのはここで言うのが適切かどうか分からないのだけでも、私の立場から言うと、やはりこのデジタル環境、あるいはインターネット、ネットワーク環境、モバイル環境の認識というのは、よく言うのだけでも、人々の間でも10年進んだのだけでも、そういった意味でこれからの25年に向けた本当の役割とワークスタイルの多様化、つまり全ての人に関わっていく責任としての私たちの役割というのはどう進めればいいのかとお考えでしょうか。

○高橋様 本当に先生おっしゃるとおりだと思うのですが、先ほど宮川さんも触れられていましたけれども、今回、国の方針が成長と分配ということになって、これから5

Gという投資についても、そのど真ん中において、その成長の基軸として広げていくということについては大賛成で、それをまた分配ということで、地方も含めてそれを還元していくということについては、この方向性を持ってしっかりやっていけばいいと思うのです。

これは先生への答えとはちょっとあれなのですが、シェアリングということはすごく今大事な世の中になってきたとされていて、これは通信会社同士のシェアリングだけではなくて、たとえば東京都さんのアセットとのシェアリング、あるいは例えば信号の話がJTOWERさんから出ていましたけれども、そういうインフラとのシェアリング、こういうシェアリングというワーディングがこれから非常にその成長にとっては大事なかなと思います。

先生がおっしゃっているように、例えば5Gであるとかシェアリング、こういう言葉はどうしてもプロダクトアウトの言葉に聞こえてくるので、先生の御質問にお答えするとすれば、それをサービスレベルに落としていくということは、人起点に、いかにどういうユースケースがこのコロナの環境の中で人が気づいたかということに立ち返って、この5Gを活用して、人起点でどういうサービスを提供することがこの遅れた10年のDX化というものを取り戻していくのか。そういうところに立脚することが実は大事なのではないかなと思いますので、我々もそういうことに力点を置きながら検討していきたいと思います。

○村井座長 ありがとうございます。

井伊社長、当然、知事から言われたライフライン、インフラストラクチャーを我々担っている、我々というか、情報通信を担っているというのは、それは当たり前なのですが、そういう意味では本当にライフライン度というか、命綱度というのはものすごく高くなってきたと思うのですよね。

環境とかグリーンとか、そういうこともそうですし、それから交通とか安全とか医療とか、あらゆる分野の基盤であるということの意義とか意味というのが進んできたがために、このData Highwayを東京都で取り組むということの意味が出てくるのだと思うのですね。

そうすると、ステークホルダーが、例えばデジ庁を作ったときも同じような議論だったけれども、あらゆるセグメントのライフラインインフラがあるわけですね。ほかにエネルギーだとか、電力だとか。それとこの情報通信のインフラがどういう役割を果たすかということも大変重要になってくるのかなと先ほどの井伊社長のお話を伺っていて思ったので

すけれども、この辺りのセグメントを越えた我々のライフラインの役割はどう進めていけばいいでしょうか。

○井伊様 知事も御心配されていましたが防災でも、一番我々の通信事業でキーになるのは電力なのです。停電をしてしまうと電力が枯渇すると通信のあらゆる機能が止まってしまう。もちろんバッテリーとか発電装置とかでバックアップをしていくわけなのですが、全ての基地局をそれで長時間もちこたえさせるというのは、多分物理的には不可能で、そのライフラインとしてのプライオリティというのを考える必要があって、例えば都の中核の機能をどこまでちゃんと維持できるかとか、あるいは病院とか、110番、119番とか、命に直結するものをどう守るとか、そういうプライオリティをつけながら、今言ったみたいなバックアップとか電源の確保というのがまず要るだろうと。

そのときに対象を、住んでいる都民の方だけではなくて、結局流入してくる近県のいわゆる他県民の人口もございまして、それから多くの外国からの観光客のお客さんもいらっしゃるということで、守るべき対象も非常に多岐にわたっているということもきっちり意識したそのプライオリティですね。都民だけが守られて、外国人の方が路頭に迷うようなのでは、首都・東京としてのレベルが問われるわけです。ですから、今度はそういったあらゆる利用者をどう考えるかで、その設計もプライオリティもつけていくということが大事だと思っています。

以上です。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは宮坂副知事、今、一通りの御意見を伺ったのですけれども、大変重要なベースラインは、知事がおっしゃったような、ある意味のライフライン、カバレッジ、それで2025年に向けて、こういうことでしたので、知事も触れられた、知事が関わっていたと言っていた最初のIT戦略、このとき私がずっと思ったのは、インターネットの環境というのは民任せなのですよね。それから民間ですずっとやってきた。これが、各社長のお話は、東京都のアセットの問題もそうですけれども、つまり官と民が力を合わせるというモデルに変わるのだということではないかなと思うのです。この辺りで、東京都の役割それから民間の皆さんの役割ということを中心に宮坂さんの御意見を伺いたいのですけれども、時間が迫っておりますので、時間が短くて恐縮ですが、宮坂さん、お願いします。

○宮坂副知事 では手短に。

本当に皆さんありがとうございます。

まさに電波とか光の回線というのはもうライフラインであるという知事の強い思いから、今までそういったインターネットのインフラに関しては民間の方にある種お任せきりになっていたのですけれども、我々も汗をかけるところはかこうではないかというところからこの Tokyo Data Highway が始まりまして、都庁の中でもチームができて、皆さんとコミュニケーションをさせてもらっております。

振り返ってみると、都庁でいうと、道路というところでは、都道で2,000キロぐらい、ある種インフラを作りました。下水道が1万9,000キロぐらいたしかあると聞いたことがあります。水道が2万4,000キロぐらい、まさにインフラを作り切ったわけですが、これは我々の大先輩たちがまさに作ってくれて、今生きているわけですが、今から作るインフラに関しては官だけで作るというわけにもいかないですし、今皆さんだけがやってらっしゃる民だけでやり切るのも多分難しいと思いますので、新しく官と民が一緒になってライフラインとしての電波、インターネット、光というのを整備して、それを次のジェネレーションとか新しいスタートアップにどうやって使ってもらおうのかというのを考えないといけないと思う、本当にいい思考の整理ができました。

ぜひこれを実行に移していきたいと思いますので、こういったコミュニケーションのチャンネルを生かしてもらって、ぜひまた具体的な提案とか提言を頂ければと思います。ありがとうございました。

○村井座長 ありがとうございました。

一つだけ。さっき約束してしまったから。

島しょ部のインフラをみんなで力を合わせて進めましょうという宮川さんの御発言がありました。これに関して一言だけ教えてください。

○宮坂副知事 島に関しては、知事も最も最優先にしているエリアなのです。島と多摩地域はすごく大事にしている、早速、通信環境はどうなのだという調査なども始めています。島に限らず不感地域とかの調査も今年やろうとしています。早速チームを作りますので、各社様と具体的な要望とかがあればお話しさせてください。ありがとうございました。

○村井座長 ありがとうございます。

本当にこれだけの顔ぶれでこういう議論をできるということは大変貴重なことではないかと思えます。この場を設定していただいた東京都の方々にも心から感謝を申し上げたいなと思えました。

そういったことで時間ぎりぎりになってまいりましたけれども、改めまして、本日の参加、

それから非常に貴重な御意見に私からも感謝を申し上げて、このセッションを締めたいと思います。

それでは司会にお戻ししたいと思います。どうもありがとうございました。

○司会 村井座長、ありがとうございました。

そして通信事業者の皆様、本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。

最後に告知となりますが、東京都では明日1月22日及び23日の2日間、『5G Connected City 西新宿2022』～つながるまちと新たな生活～を開催します。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、今回は完全オンラインでの開催となります。

イベントでは、高速大容量・超低遅延・多数同時接続という5Gの特徴を分かりやすくお伝えするため、離れた場所からの同時演奏による音楽ライブのほか、最先端技術に関する情報番組の生配信などを予定しています。

詳細は、この後に表示されるQRコードよりイベント特設ページにアクセスすることで御確認いただけます。皆さん、ぜひ御視聴ください。

これをもちまして「令和3年度TOKYO Data Highway サミット」を終了させていただきます。御出席者の皆様、御視聴いただいた皆様、どうもありがとうございました。

午後4時58分